

2. 8 教育内容・方法の改革

(1) 学生による授業評価

1) 授業アンケート調査

工学部における授業改善アンケートは、1994 年度後期に 37 の科目に対して実施されたのに始まった。その方法は、統一した設問項目のアンケート用紙を用いて行われた。その後、いくつかの方法が試され、1999 年度より熊本大学学務情報システム(SOSEKI)を用いる方法に移行した。この方法は Web 入力であるために、手軽で集計も容易であるが、入力は受講者の自主性に任されていることから回答率の低さが問題であった。回答率の向上は、アンケートの信頼性向上の重要な要素であるため、その改善の試みが種々検討されたが、学生の任意入力に頼る限り回答率には限度があると判断された。そこで 2004 年度から、マークカードを用いた授業アンケートを全学で統一的に実施することとなった。マークカード方式の採用により、授業アンケートの回答率は飛躍的に向上したが、アンケート実施のための人手と集計結果の電子情報化に時間がかかるなど、まだ多少の問題が残っている。

本アンケート対象の実施科目数は、2010 年度前期は 169 科目、後期は 151 科目である。工学部では多数の教員で分担して行っている実験・実習科目やインターンシップ科目、卒業研究等は事前確認により本アンケートの対象外としていることから、ほとんどは専門の講義科目や演習科目である。なお、2006 年度(平成 18 年度)の学科改組により、2008 年度後期までは新学科と旧学科の科目が混在していたが、2009 年度は改組から 4 年目を迎えたため、すべての年次の科目が新学科のものに統一された。

本報告では、各質問に対する集計結果、アンケートに記入された学生の自由記述の例を後半にいくつか示す。これらのデータは、教員個人の授業方法の改善に資することはもちろんであるが、本アンケートを利用して、学科(教育単位)ごとに組織的な授業改善の方策がとられている。

その例として以下のものが挙げられる。

1. 各質問項目について、高い評価を得た科目と教員を教室会議で公表する
2. 結果のヒストグラムを作成し、各教員に自分の評価の相対的位置を知らせる
3. アンケートで悪い評価となっている教員に学科長からその旨通知し、熟慮を促す